

しゃろーむ

学園だより No.29

■発行人・発行所／
学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷 太治
札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

チムグルサン

理事長 勝谷 太治

以前、ミッションスクール系（幼稚園）の会報に次のような記事が載りました。園庭で転んで泣き叫ぶ園児。その園児に寄り添い自分で立つように声掛けして励ます教師。しかし、先生にやさしく起こしてもらいたいからでしょうか、その子はいつまでも自分で立とうとしません。その時、突然その園児の前に滑り込んできた子がいました。泣いていた子と同じく自分もほりだらけになり、顔と顔を合わせてニコッと笑い「遊ぼう」と言ったのです。泣いていた子はすぐに起き上がりその子と手をつないで走っていきました。

以前、ミッションスクール系（幼稚園）の会報に次のような記事が載りました。園庭で転んで泣き叫ぶ園児。その園児に寄り添い自分で立つように声掛けして励ます教師。しかし、先生にやさしく起こしてもらいたいからでしょうか、その子はいつまでも自分で立とうとしません。その時、突然その園児の前に滑り込んできた子がいました。泣いていた子と同じく自分もほりだらけになり、顔と顔を合わせてニコッと笑い「遊ぼう」と言ったのです。泣いていた子はすぐに起き上がりその子と手をつないで走っていきました。

以前、ミッションスクール系（幼稚園）の会報に次のような記事が載りました。園庭で転んで泣き叫ぶ園児。その園児に寄り添い自分で立つように声掛けして励ます教師。しかし、先生にやさしく起こしてもらいたいからでしょうか、その子はいつまでも自分で立とうとしません。その時、突然その園児の前に滑り込んできた子がいました。泣いていた子と同じく自分もほりだらけになり、顔と顔を合わせてニコッと笑い「遊ぼう」と言ったのです。泣いていた子はすぐに起き上がりその子と手をつないで走っていきました。

以前、ミッションスクール系（幼稚園）の会報に次のような記事が載りました。園庭で転んで泣き叫ぶ園児。その園児に寄り添い自分で立つように声掛けして励ます教師。しかし、先生にやさしく起こしてもらいたいからでしょうか、その子はいつまでも自分で立とうとしません。その時、突然その園児の前に滑り込んできた子がいました。泣いていた子と同じく自分もほりだらけになり、顔と顔を合わせてニコッと笑い「遊ぼう」と言ったのです。泣いていた子はすぐに起き上がりその子と手をつないで走っていきました。

以前、ミッションスクール系（幼稚園）の会報に次のような記事が載りました。園庭で転んで泣き叫ぶ園児。その園児に寄り添い自分で立つように声掛けして励ます教師。しかし、先生にやさしく起こしてもらいたいからでしょうか、その子はいつまでも自分で立とうとしません。その時、突然その園児の前に滑り込んできた子がいました。泣いていた子と同じく自分もほりだらけになり、顔と顔を合わせてニコッと笑い「遊ぼう」と言ったのです。泣いていた子はすぐに起き上がりその子と手をつないで走っていきました。



倶知安藤幼稚園

「マリア様に守られながら」 本田 智美

藤幼稚園の玄関では、マリア様がいつも見守っています。朝登園すると、マリア様の前で「マリア様おはようございます」から始まり、帰る前には「マリア様さようなら」をします。年齢に合わせて神様のお話に触れる時間もあります。

5月は聖母マリアの月です。子どもたちは家から花を持ってきたり、ストロ―とお花の形の紙でネックレスを作りマリア様に捧げます。「いつも見守って下さりありがとうございます」の気持ちを込めてお祈りしました。

幼稚園での毎日のお祈りを通して、保護者の方からは「家でも手を合せてお祈りするようになりました」との喜びの声が聞かれます。私達保育者にとっても、子どもたちの成長を大変嬉しく思います。子どもたちからは、「マリア様に挨拶しよう!」「マリア様にプレゼントする!」の声も聞こえてきます。

外国の方が多くいるこの地域の特性を大切に、祈りを通して世界にも目を向けながら、これからも感謝する心や思いやる気持ちを育て見守っていききたいと思います。



登別カトリック聖心幼稚園

園バスドライブ～いちご狩り～ 高橋 有加

春の訪れとともに園庭にもたんぽぽが咲き、各クラスでは野菜やひまわりの種を蒔いたり…とたくさんの植物の命が芽吹く素敵な季節がやってきました。子どもたちは園生活にも慣れて、にぎやかな声があちこちから聞こえてきます。

6月には園バスドライブがあり、昨年度は壮瞥町へいちご狩りに行きました。学年ごとに3日間に分けていますが、子どもたちは「明日は何組?」と自分の番が来るのを心待ちにしています。ハウスの中はいちごの甘い香りと少しむっとした空気に、子どもたちは汗ばみながら真っ赤ないちごをお腹いっぱい頬張っていました。中にはいちご嫌いな子も自分でとったいちごなら…と口に運ぶ子もいました。また、青空の下で食べるお弁当は格別で、お腹いっぱいいちごを食べてもぺろりと完食してしまう子ばかりです。お弁当を食べ終わると「デザート食べてくる!!」と再びハウスに向かう子も…。

いちご狩りが終わると壮瞥の道の駅へ。道の駅では果物や野菜を模った遊具などで身体をたくさん動かして遊んでいます。たっぷり遊んだ帰りのバスの中は、すやすやと寝入ってしまう子もいました。

運動会練習の真っ只中に行われるバスドライブ、日々の練習もいちごパワーで元気いっぱい頑張ってくれています。



長沼カトリック聖心幼稚園

～園と家庭との繋がり～ 小泉 めぐみ

週2回のお弁当で、キャラクターの描かれた使用後のふりかけの袋を「ちょうだい」と言ってきた友達にあげたり、交換したりする姿が見られます。この袋は子どもにとっては宝物。この袋を巡ってのトラブルが度々起こります。ある男の子が仲良しの子と袋を巡ってケンカになりました。自分の気持ちを言葉で表現し主張もはっきりできる子です。

保育者が仲介に入り、相手の子どもと3人で話し合い、解決し仲直りました。降園後、園での出来事を保護者に伝えました。家庭でも子どもの話を聞いてくださいました。おかげで最初のうちは納得できずにいた子も、少しずつ相手の気持ちをわかるようになってきました。その後、その保護者から「ふりかけは家庭でかけて袋は園に持ってこないようにしてはどうでしょう」と、相談がありました。確かに、度々起こるトラブルの種をなくすことで、子ども同士のケンカは少なくなるでしょうが同時に、主張のぶつかり合いと相手の気持ちを考える機会も少なくなります。幼児期の今だからこそ、たくさんの人と自己主張がぶつかり合うことで相手の気持ちを考え思いやりが育つ経験を重ねて欲しい事をお伝えしました。

「人間関係」は大人になっても続きます。幼児期に人との関わりをたくさん学んで、豊かな人間性を育ていけるように働きかけていきたいと考えています。その保護者の方は園の考えを理解していただき、様々な場面でいつも協力していただきます。園と家庭は子どもを通して繋がっています。両者が同じ方向を見る事で子どもにとってより良い環境になる事を改めて実感させていただきました。



笑顔いっぱい たんぽぽみち

虹の森カトリック幼稚園

春の陽射しの中で… 三戸 沙織

新年度が始まり2か月が経ち、毎朝、子ども達の「おはようございます!」という明るい挨拶が玄関に響き渡っています。年少児は幼稚園生活にも徐々に慣れてきており、年中長児は、お兄さんお姉さんとしての自覚が生まれ、優しくお世話をする姿がとても微笑ましいです。

登園してきた子ども達は、朝の身支度を終えると園庭・室内遊びのどちらかを自分で選択し、取り組みます。園庭では、草花を摘み、飼育しているうさぎに与えたり、たんぽぽの綿毛を飛ばしてみたりと、春の自然を体感しながら、元気いっぱいに遊ぶ様子が見られます。

先日、園庭にいた蟻をじっと観察している子がおり、その姿に興味を示し、数人が集まってきました。その中には、虫を嫌がる子どももいましたが、友達の楽しそうな様子を見て、いつの間にか一緒に捕まえ始めていました。「虫は怖くないよ」と大人(保育者)が言うことよりも、実際に子ども同士の中で体験し、学びあう事の大切さに触れた出来事でした。「蟻も神様が作って下さったね。」と声を掛けると、「そうなの!?!」と目を輝かせる姿を見て、日々の園生活の中で、神様のことを身近に感じられる子どもになって欲しいと願っています。



「本当にわかる」ために必要な「失敗の経験」

藤女子大学人間生活学部保育学科 准教授 高橋 真由美



学生の実習の引率で幼稚園に行つたときの出来事です。書いた絵を作品帳に綴じようとしていた3歳児のMちゃんを実習生が手伝っている場面を見かけました。作品帳は紐で綴じるようになっていて、紐を穴に通すのを手伝い、穴から少しだけ出ている紐を引っ張るように声をかけていました。M

ちゃんと言われたとおりに、穴から出てくる紐を引っ張ります。うまく引っ張ることができたと

思ったのですが、力いっぱい引っ張ってしまったため、もう片方の穴に入っていた紐が穴から抜けそうになってしまいました。実習生が焦って「あっ、ダメだよ」と止めたのが面白かった

こともあり、Mちゃんは引っ張るのをやめません。困って「ダメダメ、抜けちゃうよ」と言うのですが、Mちゃんはやめません。そこで実習生に「好きにさせてごらん」と声をかけて様子を見ることにしました。

Mちゃんが力いっぱい紐を引っ張ると、案の定、反対側の紐の端が穴から抜けてしまい、作品がバラバラになってしまいました。Mちゃんは困った顔をして実習生のほうを見ました。実習生が「Mちゃん、もう一回、紐を通そうね」と言つて、先ほどと同じ手順でMちゃんが紐を通すのを手伝いました。すると今度は、力をしつ

かり加減して、真剣な顔つきで穴から出てくる紐をゆつくりと引っ張り、実習生にリボン結びをしてみらつて作品帳をしまいに去了。

Mちゃんは、自分の力加減が悪く、作品がバラバラになってしまったという失敗を経験しました。この失敗の経験があつたからこそ、「なぜそのことをしてはいけないのか」ということを「本当にわかつた」のだと思います。大人は、これまでの経験上、「こうするとこうなる」という見通しをもてるため、子どもがすることに對して「それはしないほうが良い」「それをすると困ると思う」ということを先回りして子どもに伝えようとしてしまいます。もちろん、危険が伴う場面など、先回りして教えることが必要な場面も多々あります。しかしながら場合によっては、大人が親切心と思つてかけた言葉が、子ども達の「考える」機会や「本当にわかる」機会を奪っているのかもしれない・・・。そう思わせてくれた出来事でした。

仲間入り

カトリック聖園てんしのおうち 園長 坂東 未来

2017年4月1日にカトリック園にもう1つの園が加わりました。学園では初めての小規模保育園「カトリック聖園てんしのおうち」が誕生しました。0歳児3名、1歳児8名、2歳児8名と皆元氣いっぱいに入園しました。



初めて家庭から離れて集団の中に入った子どもたち・・・子どもたちも保護者もそして保育士もドキドキの1か月でしたが、私たちが思つていた以上に子どもたちの対応力や柔軟性に驚きました。泣いていた子、不安顔の子も1か月もたたないうちに保育士に手を伸ばして抱っこをねだつたりする姿が多く見られました。

初めて家庭から離れて集団の中に入った子どもたちも保護者もそして保育士もドキドキの1か月でしたが、私たちが思つていた以上に子どもたちの対応力や柔軟性に驚きました。泣いていた子、不安顔の子も1か月もたたないうちに保育士に手を伸ばして抱っこをねだつたりする姿が多く見られました。

初めて家庭から離れて集団の中に入った子どもたちも保護者もそして保育士もドキドキの1か月でしたが、私たちが思つていた以上に子どもたちの対応力や柔軟性に驚きました。泣いていた子、不安顔の子も1か月もたたないうちに保育士に手を伸ばして抱っこをねだつたりする姿が多く見られました。

